



鍛冶職人。松山市出身。鍛冶を営む家の末子として生まれる。高校卒業後は、土佐鍛冶の流れをくむ長兄・高興から山林用の刃物、鎌、包丁の製法を習得。しかし、戦後の高度成長期を迎えた状況下で鍛冶としての将来が見出せず、上京して刃物専門店「木屋」に入社、11年間の社員生活の中で国内外の一級の刃物に触れ、その見識を高めるとともに鉄を自在に扱う鍛冶の匠の技を再認識した。

昭和46(1971)年、生涯の師と仰ぐ法隆寺専属の宮大工・西岡常一と運命的な出会いを果たし、以来、法隆寺や薬師寺創建当時に使われていた古代工具を、西岡棟梁の指導の下、その復元に取り組むようになる。その翌年、長兄の死去に伴い、両親を看るために帰郷して鍛冶を継ぐことを決意、包丁などの刃物を作りながら古代工具を試作し、薬師寺金堂再建の際には槍 鉋

40丁を奉納した。昭和52(1977)年、薬師寺西塔再建用の白鳳型和釘の復元と約7千本鍛造の注文を受ける。鍛造の条件は、薬師寺創建当時(西暦680年)に近い材料と製造法で、千年の耐久性を兼ね備えたものという大変厳しいものだったが試行錯誤の末、見事に要求どおりの白鳳型和釘の復元に成功した。以来、25年以上にわたり薬師寺中門、回廊、大講堂の再建に用いる和釘を大小約3万本鍛造するとともに、室生寺五重塔(国宝)や松山城本丸一ノ門(国重要文化財)の修復など、様々な歴史的建造物の修復などに使う釘や鉋などの建築金具鍛造という重要な役割を担った。

略歴

昭和10(1935)年8月6日	松山市堀江町に生まれる。
昭和19(1944)年	この頃より、父の鍛冶仕事を手伝うようになる。
昭和36(1961)年	上京、刃物専門店「木屋」に入社
昭和44(1969)年	長兄・高興(初代・興光)死去
昭和46(1971)年5月	法隆寺専属宮大工三代目・西岡常一棟梁と出会う。
昭和47(1972)年9月	木屋を退職して帰郷。鍛冶を再開「二代目・興光」を名乗る。
昭和49(1974)年	薬師寺に槍鉋を奉納
昭和52(1977)年	薬師寺西塔再建用の和釘の鍛造開始
昭和58(1983)年	竹中大工道具館に展示する古代工具の復元開始
平成9(1997)年10月17日	日本建築士会連合会より伝統的技術者賞が贈られる。
平成10(1998)年	室生寺金堂修復用の巻頭釘を鍛造
平成13(2001)年4月10日	吉川英治文化賞受賞
平成14(2002)年	山口県岩国市の錦帯橋架け替えに使用する皆折釘などを鍛造 大洲城再建用の和釘を鍛造
平成15(2003)年	松山城本丸一ノ門修復用の和釘を鍛造
平成16(2004)年	平城宮大極殿再建に使用する大釘を鍛造 愛媛県功労賞受賞
平成17(2005)年5月	日本建築学会文化賞受賞
平成21(2009)年	読売あをによし賞受賞
平成25(2013)年	法隆寺金堂修復用の和釘を鍛造 東大寺大仏殿甲止用大釘を鍛造
平成29(2017)年6月6日	逝去

(写真提供：能田昭男氏)

〈関連図書〉

- ・白鷹幸伯『鉄、千年のいのち』 草思社 1997年
- ・能田昭男・神谷教彰『写真集「匠の日々」-千年の釘 鍛冶 白鷹幸伯の軌跡-』 四十雀会 2011年

〈主な収蔵資料〉…(P218, 97~100)

〈ゆかりのある場所〉…(P295~296, 128~129)

〈関連施設〉…竹中大工道具館

〒651-0056 兵庫県神戸市中央区熊内町7-5-1 TEL: 078-242-0216